

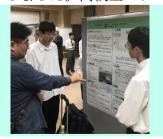
# 第41回日本創造学会研究大会報告

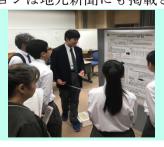
# 創造性とイノベーションの新展開

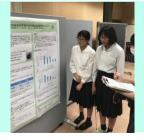
日本創造学会第41回研究大会は石川県能美市の北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST)で、2019年9月28-29日に開催されました。近年、創造性研究とイノベーション研究が急激に接近・融合されており、今年度は「創造性とイノベーションの新展開」という統一テーマで行ないました。東京大学名誉教授の丹羽清氏、JAIST名誉教授の國藤進氏、四画面思考研究所代表取締役の近藤修司氏が招待講演や基調講演を行いました。プロダクト、プロセス、あるいはマインドのイノベーションの変遷サーベイ、方法論、実践について撤退的な討論を行い、参加者に感動を与えました。また国際セッションでは中国科学院のTANG,Xijin教授がキーノートスピーチを行いました。

# Keynote Speakers (7) Mind Innova participants of which means Inno I

41回大会の総参加者数は111名ですが、それ以外に高校生24名も参加しました。会員による日本語研究発表42件、22件の英語研究発表がありました。高校性セッションでは8件のポスター発表がありました。国際セッションではJAISTの院生2名(SUN,XioleiとZHAO,Jing)と慶應大学の院生1名(赤木真由)がBest Presentation Awardを受賞しました。高校生セッションでは参加者の投票により、金沢泉丘高校1件と小松高校2件の高校生ポスター発表賞を授与しました。高校生セッションは地元新聞にも掲載されました。







日本創造学会としては 初の試みであった、研究 大会での高校生ポスタ ーセッションは、複数の 地元のメディアから取材 を受け、ニュースで紹介 されました。

また、JAISTが世界に誇るJAISTギャラリー、情報環境、ファブラボの見学会を行いました。 懇親会は温泉旅館「まつさき」で行い、参加者51名が加賀料理を堪能しつつ、女性和太鼓で盛り上がりました。

以上、41回研究大会では、会員同士の親交を温め、創造性とイノベーション研究の最前線を学び次なる両者の統合発展につながる創造的破壊を議論しました。お互い今後の協力関係を含む「知の共創」への多くの出会いがあったことをご報告します。 (大会委員長/理事 國藤進)





### ● ● ● ● 国際セッションBest Presentation Award ● ● ● ●



ZHAO,Jingさん



SUN,Xioleiさん

国際セッションでの
Best Presentation Awardは、
ZHAO,Jingさん(JAIST)
SUN,Xioleiさん(JAIST)
Akaki, Mayuさん
(慶應義塾大学大学院)
の3名が受賞されました。

※赤木さんは授賞式に出られなかった ため、記念写真はありません。

国際担当実行委員キム先生、プログラム委員長の永井先生との記念写真

# 研究大会発表風景2019



# ★★学会賞授賞式★★

2019年9月28日第41回研究大会開催時に行われた会員総会会場にて、学会賞を受賞された方の表彰式が行われ、田村理事長より表彰状と記念品が送られました。

## 【日本創造学会論文賞】



### 2018年度論文誌Vol.22論文賞 安松健氏

論文タイトル: 創造的ワークショップのための手法と成功要因 の研究 マーケティング(生活者理解)における ケーススタディ

# 【日本創造学会著作賞(2017-2018)】





著作賞(2018年度出版) 阿部川 勝義氏





著作賞(2017年度出版) 櫻井敬三氏

# 【研究大会発表賞】

発表タイトル: オープンファク トリーによる中 小企業ネットワ ークのイノベー ション



第40回研究大会発表賞 丸山一芳氏



第40回研究大会発表賞 澤泉重一氏

発表タイトル: 成功した経営者の思い がけない出来事への対 応について



第40回研究大会発表賞 学生賞 伊藤弘道氏

発表タイトル: フィトンチッドは高校 生の創造性の向上に効 果はあるのか





**イノベーション実現のための価値分析のすすめ** 一創始者マイルズ師の思想を生かし越える一

著者: 櫻井敬三(日本創造学会会員、日本経済大学大学院) 出版社: 文眞堂 価格: 3190円(税込) 発刊日: 2019年8月

本書は、価値分析の創始者ローレンス・D・マイルズを師と仰ぐ著者が、師との交流による学びから自らの経験事例を融合させたエッセイである。日本初公開のVA図書の翻訳も掲載。マイルズ師の価値分析思想(破壊し、創造し、洗練化せよ)の実践でイノベーションが実現できる。

# イギリスとドイツへの旅

会長:徐 方啓

昨年、わが学会は近畿大学経営イノベーション研究所と共同でICCI2018を開催しました。その時、イギリスのリカーズ教授とドイツのゲシュカ教授が基調講演を行う予定でしたが、残念ながら台風による関空の閉鎖で来日できなくなりました。そのため、私はいつかお詫びに行くことを考えていました。幸いにも1年間の準備をした後、ついにこの願いを叶えました。

9月初旬、ロンドンの郊外にあるブライトンという町でサセックス大学ビジネススクールなどイギリスの3大学が共同主催した国際会議(POMS2019)が行われました。筆者は同国際会議に出席した後、電車でマンチェスターへ移動しました。御年79才のリカーズ先生は自ら車を運転して私を彼の自宅まで連れていきました。リカーズ先生とは23年前から文通し始め、後にメールで交流をしていますが、お目にかかるのは今回初めてでした。しかし、ご自宅に泊まらせていただけるほど、親しい友人同士です。

私は、リカーズ先生に昨年のことについてお詫びをしました。また、国際創造と創新協会 (IACI) の初代会長に就任したことに感謝をしました。リカーズ先生は喜んでIACIの会則にサインして、記念写真を取りました。

翌日、リカーズ先生の案内で彼が名誉教授を務めているマンチェスター大学ビジネススクール を訪問しました。その後、有名な科学と産業博物館を一緒に見学しました。



サイン後の記念写真



マンチェスタービジネススクールにて

ドイツへの旅は、11月初旬に3泊5日というハードなスケジュールで実施しました。昨年から 私の訪問時期について互いに調整していましたが、なかなかうまくいきませんでした。ようや く近畿大学の学園祭で休講する時期を利用して実現しました。

11月1日の午後7時半頃フランクフルト空港に到着した後、マティナ・ゲシュカ女史の車でダルムシュタット市内のホテルに直行し、チェックインしました。翌日の午前、近くの市民会館で行われたドイツ創造学会の定例会議で、私は「日本における創造性開発」をテーマとする基調講演を行いました。マティナ女史は1991年に短期留学で日本に3ヶ月滞在したことがあります。また、義理のお父さんの紹介で日本創造学会を訪れたことがあります。ですから、彼女の講演は、日本の話、特に高橋誠先生にお世話になったことについてよく触れていました。午後はワークショップでした。私は強制連想法を中心に、いくつかの事例を示した後、20名の参加者を5つのグループに分けてグループ作業を行いました。1時間後、持参したコーワライティングシートを配布して各グループに成果を発表してもらいました。面白いアイディアも多く出たので、盛り上がりました。その後、懇親会に参加しないかと誘われましたが、時差ボケと疲労を回復したいので私は断りました。

2日目はゲシュカ先生がハイデルベルクを案内してくださいました。ハイデルベルクは戦争の被害を受けなかったので、昔の姿が残っています。

3日目は月曜日で、朝のラッシュ時間渋滞が酷いと言われたので、早くホテルをチェックアウトして空港に向かいました。確かに来た時30分の道は1時間もかかりました。



和服姿で講演するマティナさん



ワークショップ風景

# ドイツ創造学会、日本創造学会と徐方啓会長に創造賞を授与

去る11月2日、訪独中の徐方啓会長から受賞の朗報が事務局に届きました。おめでとうござい ます。

ドイツ創造学会は、創造性分野の理論研究と実践活動に顕著な業績をあげた個人または組織 を表彰するために創造賞「CREO」を2007年に創設しました。毎年国内外から1名の個人または 1つの組織を選出して創造賞を授与します。

CREOはデカルトの名言「我思う、故に我在り」を基に「我創造、故に我在り」のラテン語 訳「creo ergo sum」から取ったものです。これまでの受賞者には、「水平思考」の考案者であ る英国ケンブリッジ大学のデ・ボノ博士(2009年)、Flow理論の研究で広く知られているミハ イ・チクセントミハイ米国クレアモント大学院大学教授(2014年)が含まれています。また、 2008年にレゴグループ、2013年にスイス創造学会が組織として受賞しました。そして今年、日 本創造学会と徐方啓会長に授与されました。

日本創造学会の受賞理由は「世界で2番目に歴史ある学会として、40年以上創造性の分野で研 究と実践を続けており、また内外との交流を積極的に行っている」という理由です。

徐会長の受賞理由は「日本創造学会会長としての国際創造と創新協会創設のためのイニシア ティブの貢献 | です。

左の写真は賞証を入れるケースで、右の写真は受賞後、徐会長とドイツ創造学会のホルス ト・ゲシュカ会長、マティナ女史、およびジョージ・メルホン理事長との記念写真です。

(報告: ICS事務局)





# 日本創造学会40周年の歩み

- 1973年発足前史~発足の1979年~2000年まで-1973 日本創造学会の前身、東京創造性懇話会が発足。 1976 「創造性研究--創刊号」を出版。 あまやままたのり うえのいりろう かのいほやお かのまたじろう くもんとおる こまつまきょう 橋山貞章、上野一郎、河合隼雄、川喜田二郎、公文公、小松左京 たごあまる たたいしゃずま まやすまませず にじり えいざいろう はやいゅうじろ 多湖輝、立石一真、中山正和、西堀栄三郎、林雄二郎、等の発起人が 1979 日本創造学会の設立を提起。 1979年10月20日-21日に本学会の設立総会及び第1回研究大会を東京 て首都圏と地方で交互に開催。 第1回の研究大会で「研究集会論文集」を発行、 以後「大会発表論文集」と改名し、毎年発行。 理事会は理事を中心に原則として2ヶ月に1回開催。 1980 3月「ニューズレター」第1号が発行され以後毎年4回程度発行 1982年-1994年まで学会初の研究会「コロキューム」 が海外を含め約50回開催。 1982 国際交流事業で「米国創造性研究調査団」の派遣。 1983年-1994年まで学会編の普及書「創造性研究」 1983 (共立出版)全10号発行。 1984 国際交流の「創造学交流中国訪問団」を実施。 M OF CE 「企業創造化への発想-10周年記念請演集-」 (毎日コミュニケーションズ)を出版。 1990 1228 422

「論文誌(Journal of Japan Creativity Society)」 の第1号を発行、以後毎年発行。

僚進、林義樹、奥正廣、徐方啓、櫻井敬三、田村新吾

本学会歴代理事長 (1979~2018)

1996

# 日本創造学会40周年の歩み

2001年から現在まで

「日本における創造性を考える」

中国政府公認「国際創造学シンポジウム」(於: 上海)」に19名が参加。 2002 日本創造学会ホームページを開設。

2003 「論文誌論文賞」「研究大会論文賞」 (後に研究大会発表賞と改定)を創設。

日本創造学会他共催の「国際会議 (KICSS) 2004 を開催。以後アジア各地で毎年開催。 日経新聞と共催で「創造性シンポジウム」を

日経産業新聞に約40回記事を連載 日経新聞と江崎玲於奈委員長の創造委員会 を結成、研究会を5回開催。

韓国で開催の「第6回世界知識会議 (World Knowledge Forum)」で、会長、理事長等が講演 論文誌が世界の逐次刊行物番号「国際管理番号ISSN」を取得。 「学会ホームページ」を報告型から情報発信型へと刷新。

2006年発足の「経営関連学会協議会」に参画、シムポジウムの企画や 英文論文誌の発行に貢献。

2007 「著作賞」を創設、2年毎に選考・表彰を実施。

「ニューズレター」が印刷物からデジタル版になり、 電子メールによる 配信に移行。 2008 創立30周年を迎え記念誌「創造性研究のあゆみ」を出版。

> 創造性研究会 (会員向自由参加型研究会) 企画運営開始。 創造性研究会をクリエイティブサロンに改名、参加対象を一般にも広 げ講演会、ワークショップなどを企画運営、2018年現在も継続実施。

「西日本支部が発足、支部大会を2016年と2017年に近畿大学で開催。

年次発行の日本創造学会論文誌は査読・採択が厳しくなり、論文誌の 創造学会論文誌は電子書籍に移行し「J-STAGE」で一般公開される。

世界各国の創造性関係学会と連携した「創造性国際会議」を、近畿大学と共催で開催。研究発表は、創造性研究や技法等から、イノベーションやアクティブラーニング等に拡大。 ドイツ創造学会より、日本創造学会と徐方啓会長が創造賞「CREO」 を授与される。

A REE

大鹿譲、師岡孝次、西勝、比嘉佑典、髙橋 誠

2005

2006

2014

2016

2018

2019

# 第61回クリエイティブサロン開催のお知らせ

### 研究会担当理事 國藤進•豊田貞光

日本創造学会主催の第61回クリエイティブサロンは12月7日に開催されます。会員・非会員を問わず、どなたでも参加できます。皆様のご参加をお待ちしております。

### 開催日:2019年12月7日(土)13:15~17:00 会場:東京海洋大学越中島キャンパス



第1部 講演会講師 西浦和樹氏

宮城学院女子大学教授 日本創造学会理事



第2部 WS講師 藤岡慎二氏

北陸大学教授 (株) Prima Pinguino 代表取締役

### 第1部:講演会:

みんなの教育:スウェーデンの「人を育てる」国家 戦略

世界最高水準の国際競争力は、こうして育つ。 日本でも自主性を重んじる教育の必要性が唱えら れるようになってきましたが、あくまで教育は学 校の中で行われるものであって、実社会とは「分 けて」考えるのが日本では一般的です。しかし、 学校と実社会を「分けない」ことで、将来の社会 に活力を与える人材を作っていこうとするのが、 スウェーデン流です。スウェーデンの「みんなの 教育」への理解が広がり、日本の教育システムを 新たな角度から見直すことで、 さらなる発展を導 く力が日本から生まれてほしいと願っています。 本講演では、「就学前からの起業家精神教育」 「アウトドア教育とアクティブラーニング」 広いインクルーシブ教育」「投票率85%の国の主 権者教育」「人生100年時代のリカレント教育と 生涯教育」 といった話題提供を行い、参加者の皆 さんで、未来の教育について考えてみたいと思い ます。

### 第2部:ワークショップ

全国に拡がる教育による地域活性化と高校魅力 化プロジェクト 〜鍵となるPBL/STEAM教育〜

全国の離島中山間地域で教育を通じた地域の活性 化として、「高校魅力化プロジェクト」が拡大し ています。

その地域における高校の有無が子育て世代の移住 定住・UIターンなどに影響し、地域の衰退に関連 すると言われているからです。

島根県立隠岐島前高校プロジェクトをきっかけと して、全国で魅力化プロジェクトが始まっていま す。

離島で始まった高校魅力化プロジェクトは、今は 文科省や内閣府の地方創生政策の一環となりました。

一見順調なような魅力化プロジェクトですが、財源や人材の確保や自治体をいかに巻き込んでいくか、など様々な問題があります。

このワークショップでは、持続的な魅力化プロジェクトの発展をいかに仕掛けていくのかについて 議論していければと思います。

### 《スケジュール》

12:45 開場

13:15-14:45 第1部講演会 14:45-15:00 休憩・開場整備

15:00-17:00 第2部講演・ワークショップ

17:15~ 別会場にて懇親会

参加費: 会員/無料 、非会員/参加費1000円 ※懇親会(希望者)は4,000円程度の実費

会場: 東京海洋大学越中島キャンパス1号館

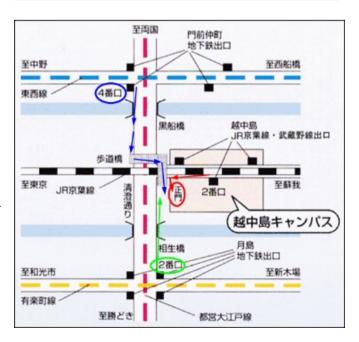
114教室(定員36名)※先着受付

所在地:東京都江東区越中島2-1-6

- ・IR線京葉線・武蔵野線越中島駅2番出口から徒歩約2分
- ・地下鉄東西線・大江戸線門前仲町駅4番出口から徒歩約10分清澄通りを南西へ
- ・地下鉄有楽町線・大江戸線 月島駅2番出口から徒歩約 10分清澄通りを北東へ

※参加希望の方は学会事務局へ、メールでお申し 込み下さい。

[氏名/所属/会員or非会員/懇親会参加の有無]







# 澤泉重一先生 追悼の辞

敬愛する偉人澤泉重一先生が他界されました。令和元年9月21日午前1時30分、享年80歳でした。3年に及ぶ癌との闘病生活の末のことです。私は雪の軽井沢の高橋誠先生の別荘にて澤泉先生と親しくなり、退出の玄関で一言講演依頼を受けました。先生独特のすり寄っての一言対話でした。笑顔でしたが目は真顔で、思わずお受けしました。講演はSAM日本チャプター理事会で行われ、澤泉先生は会長でした。その場で名誉顧問の立石信雄氏を紹介されました。

第37回日本創造学会大阪大会の基調講演を立石氏にお願いする時も澤泉先生とお邪魔し了解を取り付けました。近年では徐方啓先生の、世界の創造性研究者を繋げる国際学会の設立について後援をお願いするために、澤泉先生と三人で立石氏を訪ね、熱意溢れる澤泉先生の進言もあり、立石氏の賛同を得、助成金も頂くことになりました。澤泉先生のご遺言は、立石信雄氏の偉業を後世に遺すための「立石信雄賞」の設立でした。

ゆっくりとお話しになる澤泉先生は、私心を捨て常に正論を選ばれましたので、各方面に強い指導力を発揮されました。研究成果では「セレンディピティ」研究の草分けであり、第一人者でした。彼の理論は後世に遺る成果であったと確信しております。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

なお、下に事務局の比嘉由佳里氏にまとめて頂いた澤泉先生の業績を挙げておきました。

令和元年十月 日本創造学会理事長 田村新吾

### 澤泉重一先生のご経歴

1939年12月23日神奈川県生まれ

1963年富山大学工学部機械工学科卒、三菱電機入社、海外向け大型プラント建設事業に携わり、異文化の中での偶発的事象の有用性に関心を持つ

1987年"セレンディピティ"と出会い、この言葉が持つ概念の活用 研究を始める

2002年『偶然からモノを見つけだす才能 ー「セレンディピティ」の活かし方』出版

2003年京都大学大学院情報学研究科後期博士課程入学

2007年『セレンディピティの探究』共著刊行

2008年日本創造学会入会

2009年京都大学にて博士号(情報学)取得

日本創造学会第31回研究大会では、大会テーマを『セレンディピティと創造性』とし、基調講演はノーベル化学賞受賞者の白川英樹博士、特別講演『セレンディピティの活用昨年9月に大阪で開催された第40』を澤泉氏が行った。
「回研究大会&国際会議ICCI2018



昨年9月に入阪で開催された第40回研究大会&国際会議ICCI2018に参加、海外からの研究者と歓談する澤泉先生(右)国際学会の立ち上げに尽力され、この時の研究発表で発表賞を受賞された。

### 役員歷

2011年-2013年日本創造学会評議員2014年2016年日本創造学会監事(

2014年-2016年日本創造学会監事(理事会出席運営協力役員)

2017年-2019年日本創造学会監事(理事会出席運営協力役員)

※2014年からの6年間、監事として会計監査を行うとともに理事会出席

運営協力役員として毎回理事会に出席し学会運営に尽力

### 受賞歴

2007年日本創造学会著作賞『セレンディピティの探求』 2018年日本創造学会第40回研究大会発表賞『成功した 経営者の思いがけない出来事への対応について』



# 新入会員紹介

### 入会者 (入会順)

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
丸山泰	正会員	熊本県立大学	熊本県	マーケティング 商品開発、ブランディング
宮西 克也	正会員	(株) パナソニック システム ネットワークス開発研究所	石川県	TRIZ、創造技法 電気電子工学

▼▼▼▼▼▼▼ 総会報告

2019年9月28日、会員総会が開催され、2018年決算・事業報告、2019年度事業活動状況、2020年活動予定、 2020年予算案等の項目について理事会より提案・報告され会員の皆様の賛成多数で承認・可決しました。

### 2018年度収入

科目	予算額	実績額	備考
前年度繰越金		3,519,126	
			正会員支払者163名 1627000 学生・ジュニア会員支払者31名 145500 入会金22名 33000
会費収入		1,805,500	※新入会者会費は入会時期により変動
			論文掲載料正会員30000×3名 90000 論文掲載料学生会員20000×4 80000 頁超過加算分5P 5000×5 25000
その他収入		281,200	その他雑収入 86200
ICCI2018還付金	0	1,007,016	

0 6,612,842

### 6計 2018年度支出

支出合計

科目	予算額	実績額	備考			
大会費	500,000	-103,084	603,084			
会議費	90,000	66,672	23,328			
研究会補助費	420,000	232,676	187,324			
交通費	130,000	86,126	43,874			
発送費	80,000	27,752	52,248			
学会誌	280,000	79,752	200,248			
ニューズレター・メディア	250,000	249,934	66			
事務局費	350,000	349,085	915			
名簿規約管理費	200,000	193,800	6,200			
HP管理費	110,000	108,432	1,568			
事務所設備費	120,000	120,000	0			
学会賞準備費	30,000	11,931	18,069			
電話使用料	30,000	13,333	16,667			
国際会議準備費	1,000,000	1,000,000	0			
予備費	744,573	172,741	571,832			
予備費	744,573	172,741	571,832			

# 収入額 支出額 繰越額 収支 6,612,842 2,609,150 4,003,692

4,334,573 2,609,150

### 2020年度予算

2020 1 37				
収入		支 出		
2019年度繰越分(監査未終了概算)	¥4,067,692	大会費	¥500,000	
		会議費	¥90,000	
会費収入 (会員数からの概算)		研究会補助費	¥400,000	
内訳		交通費	¥130,000	
正会員207人×10000円×75%	¥1,552,500	発送費	¥80,000	
学生会員56人×5000円×70%	¥196,000	学会誌	¥50,000	
海外会員6人×5000円×50% 過去3年の実績に基づいた支払い率	¥15,000	NL・メディア作成費	¥250,000	
近ム3年の天根に至 プ゚゚/こ又加゚゚宇		事務局費	¥350,000	
新入会者入会金約20名分	¥30,000	名簿・デジタルデータ類管理費 (規約、名簿、会費収納簿、ITアトプレス等管理)	¥200,000	
(2000×10、1000×10)		ホームページ管理費	¥110,000	
論文掲載料	¥100 000	事務所設備費 (光熱費、OA機器保守費、事務所使用費 等)	¥120,000	
雑収入				
*在·X.人	<b>\$20,000</b>	学会賞準備費 	¥30,000	
		電話使用料	¥30,000	
		予備費	¥3,641,192	
	¥5,981,192		¥5,981,192	

※予算収入欄の2019年度からの繰越額は年度途中のため概算です。(2019年見込繰越額参照) 2019年度会費収入については2019年現時点での会員数に基づいた概算です。 2020年度論文掲載料・雑収入については2019年度実績に基づいた概算です。

### 事 務 局 メッセージ

9月28日~29日の2日間、金沢で開催された第 41回研究大会は、高校生ポスターセッションや 日本語・英語での研究発表など、大変充実した 内容で盛り上がりました。国際セッションでは、 発表内容の即日評価が行われ、閉会式前にアワ ードの表彰も行われました。この熱気を是非来 年度の大会につなげていきたいと思います。

(事務局:比嘉)

日本創造学会 ニューズレター 2019年11月発行(4Na.) 日本創造学会事務局

発行人:田村新吾

編集担当:比嘉由佳里

〒272-0015 千葉県市川市平田

1-10-2Tel 080-3465-6152

Fax 047 - 718 - 1747

e-mail: jcs-info@japancreativity.jp